

Symposium: December 8, 2019

# メディア技術がもたらす公共圏

The public sphere engendered by media art

登壇者：

村田麻里子（関西大学社会学部教授）

立石祥子（立命館大学衣笠総合研究機構専門研究員）

門林岳史（関西大学文学部准教授）

モデレータ：伊村靖子（IAMAS講師）

2011年の東日本大震災は、既存のインフラストラクチャーの脆弱さやコミュニティの再生を意識する契機となりました。こうした背景と軌を一にするように、メディア技術によって、芸術をめぐる体験の共有の意味は変化しつつあります。ミュージアムの機能や都市空間において公共性を問うカウンター・モニュメントなどの事例、漫画の紙面から読み解く認識論を通じて、公共圏／親密圏のあり方を問い、行為遂行的・仮設的な芸術の可能性について議論します。

